

西部地区レフェリー講習会並びに社会貢献活動

日時 2023年9月24日

場所 北島ボクシングジム（福岡県博多区）

出席者 古田、岩崎、野田、姫野、河島、棚町、小池、安河内

1 第1部 レフェリー講習会

(1) 座学 ～ ジェスチャーの大切さ等

ア スリップ、タイム、減点時のジェスチャーを誰が見てもわかりやすく提示することの重要性につき実際の事例を題材に話し合った。

また、声をしっかり出すことの重要性を確認した。

イ ゴング後の加撃やブレイク直後の加撃につきその対処方法につき話し合った。

ウ ローブローや顔面の反則範囲につき明確にした。

エ マウスピースが落ちた時の処置につき確認した。

オ その他意見交換

(2) 実践

北島ジムスパーリング大会、WBC ケアーズジャパンマスターズボクシングにおいて実際リングに上がり実戦形式でレフェリングを行った。

ア 声出し、ジェスチャーとも非常に明朗、明確であった。

イ 全員動きはスムーズで不安がなかった。

2 第2部 社会貢献活動～WBC ケアーズ

(1) マスターズボクシング

ア 参加者

50歳、54歳、43歳、41歳、58歳、58歳、48歳、43歳

イ 総括

1ラウンド1分半ないし2分にて計2ラウンドのスパーリングを実施した。

経験や実力に差があるものの真剣に最後まで打ち合いを行った。健康管理に関しては、著しい実力差がない限り、年齢からくるパワーの低下から危険性を感じるシーンは一度もなかった。



(2) 車いすボクシング

ア 参加者

佐世保より北岡氏（62歳）、前田氏（59歳）が参加した。

イ 1分半2ラウンドのスパarringを行った。車いすをリングに上げることが困難であったためフローアで行った。車いすの形状からパンチが届かないシーンが散見された。



(3) ワン・アームドボクシング

片腕の選手を想定してスパarringを行った。片腕であるため右のガードができず、不用意に左フックをもらうケースがあった。

(4) キッズボクシング

佐世保より3名のキッズが参加。シャドーボクシングを2ラウンド行った。



3 総括

試合出場機会の乏しい西部地区・試合役員が多忙の中参加をしてくれたため、実りの多い講習ができた。このような活動を定期的に行うことで技術の研鑽のみならずモチベーションの低下をある程度防ぐことが可能であると感じた。

また、ジム、協会側にとってもこのような活動を通じて相互理解が深まり、さらに来期以降の興行実施にもつながる可能性を秘めていると思った。

大切なことは1度で終わらせないことであり、継続的に活動を実施することで地盤沈下の著しい西部地区を協会とともに盛り上げていくことが可能と考える。

4 今後の予定

次回2023年10月29日福岡にて開催予定。



2023年9月26日

一般財団法人日本ボクシングコミッション

本部事務局長 安河内 剛

西部地区 主任 小池 幸弘